レッスン：22“M”

テーマ：アウタルキー/質問と答え

MAC/22M/ENM/KE4/3//DOC

私の兄弟・姉妹たち、

スピリット、光、火の子供たちよ。私達は常に主、絶対、主の聖性に抱かれています。

質問：アウタルキーは現象界の様々なレベルにあるように見うけられます。それは観察者の理解、あるいはそれら様々なレベルを表現する現れそれ自体によって制約されるのでしょうか？

K：本当はアウタルキーは一つです。しかし、創造界における様々なレベルの現れの結果として、アウタルキーは異なった様々なレベルで表現されています。

　　魂のセルフ・エピグノシスは最内奥の特質を完全に表現していますが、絶対存在の絶対アウタルキー(Absolute Autarchy) を表現していません。魂のセルフ・エピグノシスはそれ自身のアウタルキーを表現しており、それは絶対存在のアウタルキーと質的には等しいのですが、量的には等しくありません。それは絶対アウタルキー内における魂のセルフ・エピグノシスである存在の、多様性のアウタルキーです。アークエンジェルたちによって表現されるアウタルキーについても、同じことが言えます。実存の諸世界におけるLifeの現象に関しては、その表現は無知の結果であり、非常に低レベルの気づきしか表現されておらず、アウタルキーは表現されていません。しかし、気づきが上昇していくにつれて、異なったレベルのアウタルキーがゆっくりと、ゆっくりと表現され始めるようになります。創造界で表現されるアウタルキーは、素質的可能性の様々なサイクルによって定義されます。

質問：それはつまり、一度あなたが聖なるモナドとしてスタートしたら、あなたはアウタルキー内にあり、絶対存在の全ての質を具えているけれど、低い波動の中に下降することによって、聖なるモナドのスパークはその表現が制約されてしまう、と言う意味ですか？

K：マインド(Mind) の低い波動の内にあるかもしれませんが、しかし、その人の現れが完全に表現されることは可能です。つまり、素質的可能性のサイクルによって提供される最高のレベルで、主の本質である特質を表現する、ということです。

質問：無知の中にある間、人はマインドの波動によって影響され、制約されるのでしょうか？

K：そうです、無知の中にいる間、あなたは影響を受けます。しかし、一度あなたが無知から自由になると、奉仕目的で低次の波動の中に留まらない限り、あなたはどのような意味でもマインドの波動によって制約されることはありません。

質問：人が魂のセルフ・エピグノシスの諸世界に入るのを止める何かがあるのですか？

K：魂(Soul) の諸世界に進んだり、あるいは実存の諸世界、そして転生のサイクル内に留まるのを止めるものは何もありません。しかし、あなたが魂の諸世界に入るのを何が止めているのか知っていますか？それは留まって、提供するという必要性でしょうか？あなたには提供しなければならないという必要性、提供するという必要はなく、あなた自身のための必要性もありません。あなたはいわば他人が必要としているもの、他人の必要性を認識します。しかし、これは認識する・しないという問題ではありません。なぜなら、あなたの本質である愛をあなたは表現し、愛は困っているあらゆる現れを抱擁するからです。そして、それがあなたを転生のサイクル内に留まらせるのです。

page2

質問：それはひとつの選択ではないかと思うのです。なぜなら、もし制約がないのなら、その人はまっすぐ移動し、進んでいくことができるべきだと思うのですが。

K：そうです、そのとうりです。制約はありません。人はもし欲するなら自由に移動することができます；欲するというのは正しい言葉ではありませんね。望むというのも違っています。例えば、もし人が存在の世界でより高次の奉仕を提供するべきなら、その人は自由にそうすることができます。しかし、自分がそこで成長を遂げたある特定の惑星で、他の人々が困っているなら、その人はそうしないでしょう。

質問：しかし、移動する自由があるのなら、あなたが再び降りてくるのを何が止めるのですか？

K：説明しましょう。一度あなたが自分自身を魂のセルフ・エピグノシスとして表現し、魂のアウタルキーを表現すれば、魂のアウタルキーは再び制約、限界の中に閉じ込められることはありません。それはもうパーソナリティーを再び転生させる乗り物を創造することはしません。自己実現したパーソナリティーが高次の波動内に入り、そのスパークが魂のセルフ・エピグノシスの中で同化されれば、もはや転生のサイクルの中で新しいパーソナリティーを転生させる乗り物を持たないのです。

魂のセルフ・エピグノシスは再び転生のサイクル内に入ることはありませんが、しかし、物質化と非物質化を通じてこれらの諸世界におけるパーソナリティーを創造します。

質問：以前のパーソナリティーを奉仕のために使用することはできないのですか？

K：いいですか、魂のセルフ・エピグノシスはもはやパーソナリティーとのコネクションを持たなくなるのです。魂のセルフ・エピグノシスはアウタルキー、および全てが全ての中にあるという魂の多様性を表現しています。**過去のパーソナリティーに関しては、理論的には、魂のセルフ・エピグノシスは永遠のアトムが転生したあらゆるパーソナリティーと同調することができますが、しかしそうすべき目的はありません。**

質問：それでは魂のセルフ・エピグノシスは、自己実現した魂のセルフ・エピグノシスとして他の永遠のアトムが転生した、あらゆる過去のパーソナリティーを使うことができるのですか？

K：以前のレッスンにおいて、存在の世界は同化の世界であり、全ては全ての中にあり、あなたの魂は私の魂および他の全ての魂と同じである、と言わなかったでしょうか？私達が背後に残したパーソナリティーは、実際に私達のパーソナリティーなのでしょうか？そして、それらはどこで機能するのでしょうか？それらのための場所があるのでしょうか？ありません、ですからそれらは永遠の今の状態に留まり続けます。だから前に私達は、アウタルキーはそれらにも特性を与える、と述べたのです。それらは永遠の存在です。エンジェルたちはどうでしょうか？それらもまた永遠でしょうか？注意して聞いて下さい。もし私達が実存の世界、転生のサイクルの中に留まるなら、たとえそれが可能であっても存在の世界には入りません。なぜなら、もし存在の世界に入るなら、それは転生のサイクルには留まらないことを意味するからです；それは法則です。もし私達が存在の世界に入るなら、私達は名前のある一人のパーソナリティーとしてではなく、魂のセルフ・エピグノシスとして表現されるからです。そして、もし私達がそうなるなら、私達は自分の表現を制約することはできません。魂はもはや限界内に制約されないからです。

　　さらに、最初に自己実現に到達する人は、実存の世界と存在の世界の間の境界線を一番最後に越える人である、ということを認識する必要があります。地球上の全ての人間が自己実現に達しても、神の黙想においてブレーシス（＊神の意志）が、この惑星あるいは太陽系はその目的を果たした、と見なすまでは、彼らは創造界において奉仕するためにその状態に留まるでしょう。その時初めて、

**Lifeの現れである人間は、様々な異なったモナドの魂のセルフ・エピグノシスから存在の世界に入り、それぞれの魂のセルフ・エピグノシスと同化するのです。**

　　要約すれば、実存の諸世界はパーソナリティーの世界であり、存在の諸世界は魂のセルフ・エピグノシスの世界なのです。**魂のセルフ・エピグノシスはパーソナリティーを創造して、それを現わすことができますが、しかしそれらのパーソナリティーは転生のサイクルの結果としてのパーソナリティーではありません。しかしながら、そのような現れが表現される手段を創造しても、他の人間とは区別される体を創造しても、それらの体は転生のプロセスを経る必要はないのです。**

page3

ですから、そのような能力があるのに、なぜそれ自身の小さな部分を制約することによって魂のセルフ・エピグノシスを制約するのでしょう？転生のサイクル内にあって、原因・結果の法則の下にある人間による助けの方がより効果的であるという場合以外は、そのようなことをする理由はありません。魂のセルフ・エピグノシスは原因・結果の法則の結果を、転生のサイクル内にあるパーソナリティーと同じように背負うことはできないのです。

質問：実存の諸世界の中にあって、サイコノエティカルな層からだけ働くという選択はできるのですか？

K：できます。そこで奉仕をするためにサイコノエティカル界という別の次元に長い間留まることを決めるなら、それは可能です。何千年もそこに留まることができます；何千年という時間は何でしょうか？そのパーソナリティーにとってそれは何でもありません。なぜなら、そのパーソナリティーは意味の制限を越えた所にいるからです。

質問：他の波動からのガイド（導き）を経験したと話す人々がいますが、リアリティー（事実）とイリュージョン（幻想）をどのように区別できるのでしょうか？

K：ほとんどの場合、それはイマジネーションです。それが事実であるかイマジネーションであるかを認識するのは困難です。以前のレッスンで述べたように、私達が創造するものはリアルであり、私達が創造する幻想もまたリアルなのです。

質問：そうですね、しかし、注意しないと、それらは私達を迷わせます…。

K：そのとおりです。しかし、あなた自身が同調する他の実体も同じようなことをします；それはあなたがどのような実体にあなた自身を同調させるかによります。もしあなたがエーテル界の実体に同調するなら、あなたを良い方に導く実体に同調しているかどうかは確かではありません。実際、開いているより閉じている方が良いのです。私達は霊媒になることを望みません。何が自分を通じて現れてくるか、わからないからです。

　　私達は自分の諸体をマスターして、気づきを高めるべきです。さらに、前にも述べたように、私達は魔術を全く認めていません。遠い過去にはそれを使いましたが。確かに、私達はそれを認めます。魔術が白魔術であろうと黒魔術であろうとテクニックは一つであり、同じ魔術がそれに気づくことなく最もまじめな信念においても使用されます。なぜなら、全てのまじめな信念は過去から影響を受けるからです。彼らはそれが正しいアプローチ、正しいやり方ではないことに気づかないのです。しかし、幸いなことに私達は気づいています。なぜなら、魔術は人間、自然、そして絶対をその人が望むように意図的に変えようとするものですが、それはエゴへの集中だからです。

あなたが魔術を現す時には、常にあなたのエゴに集中しています。たとえあなたが何らかの助けを提供するとしても、最終的にはあなたのエゴに集中しており、あなたがそれ以後も確実に善を提供し続けるかどうかはわかりません。なぜなら、あなたには動機があるからです；しかし、真の愛の表現には動機がありません。あなたが愛を現す時には、あなたには動機はありません。動機は全くありません。動機はどこから出てくるか知っていますか？それは欲望からです。

**あなたが欲望を現さない時、それはあなたが諸体を作り直したことを意味し、それらの諸体は欲望から解放されています。私達はそれに向かってワークするべきです。**

私達は常に主、絶対、主の聖性に抱かれています。

　MAC/22/EN/DOC

EXERCISE/CAT2/SERIES“D”27

エクササイズ：カテゴリー2/シリーズ“D”

シリーズ/“D”27

　　できるだけ快適に座ります…リラックスします…純白のあなたをイメージします…そしてあなたの身体の境界を感じます…アガピという言葉を繰り返しながら主のアガピ、主の腕の中、平安、静寂、そして至福の状態へと入っていきます…あなたは純白です…深く、心地よく呼吸をします…手の平を上向きにして、両手を膝の上に置きます…深く、心地よく呼吸を続けます…全身が純白になっており、あなたの手の平がチューブの末端であり、チューブを通じてあなたの呼吸が行なわれるとみなします。

息を吸うたびに、息が手の平から手へと入り、エーテル・バイタリティーであるこの吸気はあなたの全身へと巡ります…この呼吸は手の平から手を通じて全身に向けて行なわれます。白いあなたの身体は一層白くなり…より輝きが増してきます…息を吸い、息を吐きます。

心地よくこの呼吸を続け…同胞の人々のために健康を捧げることができるよう、あなたの健康を願います…あなたの前に癒しを必要としている人を連れてきます…そして、その人の胸に右の手の平を置きます…左の手の平は上向きで膝に置かれたままです…それでは、あなたが息を吸う度に、エーテル・バイタリティーは左の手の平から吸い込まれ、あなたのハートの中心を通って右手へと行き、右の手の平から癒しを必要としている相手に入っていきます…それは愛、主の愛の結果です…それはあなたが主の愛をある程度表現している結果です。

主の愛をいくらか表現させていただいたことを、最愛の主に感謝します…他の人々に与えることができるよう、再びあなたの健康を願います…最愛の主からの祝福と愛があなたにはあり、それはまたあなたの家庭、あなたの愛する人々、そして全世界へと向けられています。

私達は常に主、絶対、主の聖性に抱かれています。

EXERCISE WITH LESSON “22”M.

EREVNA/MAC/22/KE3/13/S3/DOC